

平成18年度第2回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

平成18年6月26日（月）
13:30～15:40
仙台市議会第一委員会室

I 次 第

1. 開 会
2. 局長挨拶
3. 議事

- (1) ごみ処理費用の負担のあり方に係る検討について
- (2) 第二次仙台市産業廃棄物処理指導計画の総括
- (3) その他

4. 閉 会

II 出席委員数 出席 16名、欠席 4名（阿部委員、豊澤委員、野田委員、紅邑委員）
（委員総数20名。詳細は別紙のとおり）

III 議事

議長（会長）	議事に入る。一番目の議事に先立ち、前回話題になった海野委員のグループによる意識調査の中から「ごみ有料化に対する仙台市民の考え方」について報告していただく。最初に海野委員からコメントをお願いしたい。
海野委員	私どもは十数年にわたって、市の協力のもと、ごみに対する市民の意識調査を行っている。今回は、昨年度の秋に、仙台・名古屋・水俣の三市で比較調査を行ったもので、そのうち仙台市の部分について、一緒に研究をしている工藤から報告させていただく。 （工藤氏から説明）
議長（会長）	ご質問とかご意見があれば伺いたいですが、初めに私から。有料化による環境問題への影響について、賛成と反対の立場ででかなり差が出ているが、ここにおける環境問題とは具体的にどのようなものか。例えば、不法投棄が増えるから環境が悪くなるという考え方なのか。
工藤氏	先ほど紹介した質問は、「環境問題全般に関して有料化という政策は有効なのかどうか」という意味合いである。「有料化はごみ問題に有効であるかどうか」という質問はしていない。
海野委員	現時点では分析していないが、環境問題への影響が実際にどういう事かについては分析が可能なので、それが済んだ段階で報告したい。
議長（会長）	有料化との関連でこのようなアンケートが行われたとすれば、どういう環境問題について考慮しなければいけないか、参考になるかという事で伺った。ほかに何か。
橋委員	有料化になった場合、年金暮らしのお年寄りに影響が大きいと思う。いくらまでかは無料で、そのあと有料にするという方法も考えられるが、このアンケートによれば、有料化に賛成の方たちというのは70歳代以上が一番多い。そういう方達の多くは年金生活者で、年収は200万円以下かと思うが、賛成が多いという事は、行政が決めた事に従おうという気持ちが一番表れているのかなと思った。そのところはどうか。
海野委員	この調査は最近のもので、分析が十分ではないが、これまでのデータをみると橋委員が言ったような傾向が確かにある。それをどう判断するかはまた別の問題と思う。

議長（会長）	あまりこれだけを議論すると先に進まないで、これからの話の中でまた海野委員からアドバイスをいただきたいと思う。最後に安孫子委員から。
安孫子委員	出来ればどういう質問項目であったか出していただきたい。また、今の話によれば分析の途中であるというし、サンプル数が 600 という中で、回答する各年代の方々がどういった方もわからない。今まで無料であったものがこれから有料になる、という事であれば、普通は反対の意見が多くなると思う。質問の際に、負担が五百円なのか千円なのか一万円なのか、そういった水準まで提示したうえでのアンケートだったのか、素朴な疑問として思う。
議長（会長）	ということでは、特に無いようであれば。
海野委員	調査項目の全容を明らかにしてほしいとの要望があれば、そのように対応する。
議長（会長）	ただ今の報告は、前回の議論において、有料化に対して市民がどのような意識を持っているか、海野委員に無理をお願いをして、短時間でお話いただいた。そのため十分に説明しきれない事もあるかと思うが、必要に応じて今後もデータを出していただければ幸いである。 市民の意識についてある程度は、この中から読み取られたものと思うので、この件についてはこれで終了とし、本題の「ごみ処理費用の負担のあり方に係る検討について」、事務局から説明を。
総務課長	（資料 1～3 について説明）
議長（会長）	この資料の目的、手数料の負担方法、対象範囲というようなところについて、前回の審議を踏まえて事務局からまとめた案が出された。これについて質問、意見を伺いたい。
矢吹委員	プラスチック製の容器包装について伺いたい。確か回収は市町村が行って、それを容器包装リサイクル協会に無償で渡しているが、そこから入札でリサイクル業者に販売をしているとの報道があったかと思う。2006 年度は 26 億円の収益があるようであったが、その事と今回の有料化との整合性はどのようになっているのか。
局長	プラスチック製の容器包装は、収集・選別・圧縮・梱包を自治体の費用負担で行い、無料で容器包装リサイクル協会に引き渡している。容器包装プラスチックを再商品化するためには、容器包装リサイクル協会がさらに費用を負担して、業者に再商品化してもらうというシステムであり、有価物として通用するような現状ではない。新聞報道があったのはペットボトルであり、以前は容器包装リサイクル協会が再商品化の費用を負担していたが、最近になって有価物として扱われるようになってきている。仙台市も一部のペットボトルを入札にかけ、少しずつ収益を上げ始めている。 今は缶・びん・ペットボトルを一つの括りで収集しているが、そのために 16 億円くらいの費用がかかっている。資源化によって収益を上げられるものは他にアルミがあり、トータル収集・選別コストまで考えればプラスにはならないだろうが、圧縮して塊にすれば有価物として売却可能で、平成 17 年度で二億円くらいの収益がある。そのほかに鉄は二千万円程度、ガラスびんは生きびんで百万円程度となっている。アルミとペットボトルについては、収集・選別・圧縮したものは売却できるが、資源物の処理費用のうち、収益としては去年の実績で言えば二億五千万円とか、そのくらいの数字になる。
議長（会長）	先ほど事務局から説明があったように、これまでコンテナ収集だったのであまり問題は無かったが、袋収集にした場合は課題があると。その課題をクリアする必要があるか

局長	<p>ら、行政としても詰めていこうという考えだと思う。</p> <p>缶・びん・ペットボトルについては、最終的に選別が終わったものが有価物であるという事もあり、収集体系を変更すると、生きびんが壊れてカレット状態になってしまい、リサイクルは出来てもリユースは出来なくなる可能性もある。収集方法の変更による経費の問題だけではなく、対象範囲に含めるかどうかは時間をいただいて総合的に考えていきたい。</p>
橘委員	<p>資料3の2ページ目によれば、有料化開始時は安い価格で始めたけれども、そのうち大変になってきて価格を上げたという都市が結構多いのではないかと思う。今回仮に50円ぐらいに決まったとしても、将来的な値上げについての不安が市民から出てくるのではないか。今回の目的はできるだけごみを減らそうというところにあるので、最初の価格設定は非常に大事だと思うが、例えば50円で始めたものが、みんなで努力した結果、40円になった、というような都市があってもいいのではないか。そういう目標を決めてみんなで頑張っていこうと。</p> <p>それから袋の大きさについて、45リットルとか40リットルとかが多いけれども、例えば45リットルと30リットルの2種類を作って、30リットルに減らせば安く済むとか、そういう細やかな対応をしていく事で減らせると考えられるので、その辺を考えてはどうかと思う。</p>
議長（会長）	<p>非常にいい提案が二つあった。後者について、今回事務局は45リットルで50円くらいという案を中心に作成しているが、次回はもっと細かい案が出ると思う。前者の提案は面白い意見だと思うが、事務局からは何かあるか。場合によって値上げするのではという市民の不安に対し、どういう回答が出来るか。</p>
次長	<p>我々が調べている限り、金額を変更した自治体は北九州市だけである。これは15円であったのを、今年の七月に50円にするという事で、金額を下げる事例は今のところ把握していない。</p>
局長	<p>今回45リットル袋で50円程度という案を示したが、ごみの排出量に応じた負担をしていただくという発想が基本なので、排出量が少ない方は、小さい、安い袋を使っただけという事は、当然考えていきたいと考えている。</p>
議長（会長）	<p>先程の質問の中で私も非常に気になったのは、値上げに対する考え方だ。現在の処理費用が一袋135円かかっているところを、仮に当初50円ぐらい負担していただいても足りないんだと、だから場合によっては上がるのではないかと心配するような市民に対して、行政がどう答えるかという事だと思うが。</p>
局長	<p>将来の値上げに対して、まだ制度が出来ていないうちからいろいろ申し上げるのは難しい。仮に導入となったとしても初めての制度なので、すぐ値上げをすとか、そういった発想は無しにして、新たな制度を運用していく事は当然と思っている。</p>
議長（会長）	<p>実は市政の中で、意外と見過ごされているのが下水道の負担で、下水道使用料を支払っている事を知らない人もいると思うが、おそらく100%を負担している。ごみでいうと産業廃棄物は本来排出者責任なので、排出者が費用の全額を負担している。一般の家庭ごみだけが全部市の税金の中だけで処理をするようになっているが、これからはそういう負担の見直しが増えてくるのではないか、という気持ちはある。</p> <p>国においては今までのように無料ではなく、ある程度有料化することによって減量化を推進するように、という方針になって来ているので、まずはその線で検討する。制度の導入にあたっては不法投棄対策等の課題があるので、そういう点で行政の努力を私た</p>

	<p>ちは期待したいと思うが、それでよろしいか。ほかに何か。</p>
深野委員	<p>この資料2の中で、資源ごみが缶・びん・ペットボトル・プラスチックとなっているが、本来は紙も含まれるはず。民間でのリサイクルの仕組みがあるために除外されているのかもしれないが、現実には家庭ごみの40～45パーセントは紙である。そうすると、例えば、資料3の3ページの手数料と減量率でいうと、80円にした場合に40パーセント減ることになるが、ごみの減量効果だけを考え、みんなで絶対に紙を出さないようにすれば、有料化しなくてもいいという結果になる。紙ごみの減量についてはどのように対応していくのか。</p>
局長	<p>プラ容器包装は処理費用がかかることから、これまで以上に分別を徹底していただかないと思うし、生ごみに手をつけると言っても、堆肥化容器購入補助の充実は考えられても、行政回収のようなものはコスト面を考慮すると現実的ではない。そうなると、紙をどう分別してリサイクルに回していくかを考える事が、ごみの減量・発生抑制・リサイクルをもっと高めるために重要であり、中心的な施策になると考えている。</p>
議長（会長）	<p>事業系ごみで、紙はもう焼却しないという事を実施したらリサイクル率が向上した、という実績がある。有料化となれば、資源物として多量の紙ごみを上手くりサイクル出来るようなシステムづくりが必要かと思う。</p>
山岡委員	<p>まず、努力する人が報われるような仕組みが必要だ。リサイクルが進んで紙ごみが分別されてくると、家庭ごみの量は少なくなってくると思うが、45リットルもの大きい袋が、例えば小人数の世帯で必要なのかが疑問。有料化には反対ではなく、当然必要な事であるが、リサイクルに努力している市民の負担が極力少なくなるよう考えてほしい。どうしても分別できなくて焼却するしかない、というごみに関しては処理費用がかかって当然だと思うので、そのために袋の大きさ・種類を検討すべきであるし、同時になぜ有料化に向かうのか、現状はこうだという事を周知しながらでないに進まない。一方的ではだめだと思う。</p> <p>もうひとつ、我々はこの審議会に生活者・事業者・NPOそれから学識者の立場で参加しているけれども、収集運搬の現場のことを知っている方が委員には少ない。一般廃棄物の分野の現場を知ったうえでの議論が必要であるし、そういった方々の意見を我々自身が知る事も必要なのではないか。ただ一般的な生活の立場だけで議論を進めるのは難しいと私は思うが、その辺はどうか。</p>
議長（会長）	<p>最初の三つの議題とは別の話題が出てきて、少し先の方まで話が飛んでしまったが、今の点については何か行政の考えはあるか。</p>
局長	<p>まず袋収集について、缶・びん・ペットボトルをどうするかはこれからの検討課題であるが、有料の袋収集という事で今考えているのは、家庭ごみとプラスチック製容器包装についてであり、先程も申し上げたように、減量の努力をされる方のために、大・中・小といった種類に分け、小さい、安い袋で出せるようなシステムには当然していききたい。</p> <p>それから、審議会での議論のみならず、制度の改正にあたっては市民説明の機会を設けたいと考えているし、また、一般廃棄物の収集をしている会社の方にも、これからのいろいろ伺っていききたいと思う。長く清掃関係業務に携わっている市職員もいるので、その話も聴きながら、現場の意見も十分頭に入れてやっていきたい。そのほかにも各集積所を管理していただいている町内会の方々の意見も聞いていかなければと思っている。</p>
議長（会長）	<p>色々な問題がこれから出て来ると思うが、それは仙台市に時間をかけて対応してもらおうとして、今ここで議論したいのは、有料化によってどうなるかという事と、45リットル50円くらいの費用を一つの基準とするという提案についてである。皆さん方の了</p>

	<p>承をある程度得られれば、次回以降はさらに踏み込んだ、小さな袋について等の提案があると思うが、そこに行き着くまでもう少し議論があればいいのではないか。手数料水準についても一緒に議論するのでよろしくお願したい。</p>
<p>崔委員</p>	<p>私の自宅、それから事務所では、新聞やコピー紙等不要になった紙を捨てる時でも、そのまま一般のごみとして捨てている。多分紙を回収する業者があるのだろうが、今までに引き取ってもらった事はない。今回の目的にあるリサイクルの一層の推進について、確かに理解は出来るけれども、実際に自分が住んでいる環境の中で、例えばそのごみ費用を負担するようになったとしても、私の家ではリサイクルが進まないだろう。ごみの処理費用を負担する事は避けられない、というのは分かるが、私が住んでいるところでは、新聞紙を引き取るようなところは無く、遠くまで持って行けばそういうところもあるのだろうが、実際は無理で、リサイクルの件で思い悩んでいる時に費用負担の話が出てきたので、非常に戸惑っている状態である。従って、費用負担の話が出るのは止むを得ないとしても、その手数料収入がどういう形になるのか分からないが、例えばもっと隅々までリサイクルするための制度づくりに役立てるとか、回収事業とか、そういう形でお金の使い途まで提案があれば分かりやすく、市民の方も止むを得ないな、と思うところもあるのではないか。使用目的を限定して積み立てて、廃棄物処理のために使うとか、そういうところまで掲げれば分かりやすいと思う。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>紙類リサイクルの充実については前回の審議会でも話題になったが、今は事業ごみの半分くらい、家庭ごみの約三割くらいが紙と言われており、これを何とかしないとごみ減量・リサイクルは進まないという認識でいる。紙類については集団資源回収を基本にしているが、少子化の問題もあり、うまくいかなくなってきたのも事実である。それを補完する意味で、現在 163 箇所の紙類回収拠点を設けており、今後さらに充実させたい。このほかのシステムづくりとして、現在二万二千世帯ほど、集積所を利用したモデル回収事業を実施している。この状況も検証しながら、さらに実績を上げる手だてを検討しているところである。手数料収入については、基本的には一般財源に入るが、何かしらのリサイクル施策によって、市民に還元できるような手だてを考えていきたい。</p>
<p>局長</p>	<p>まだ受益者負担のあり方について検討に着手したというところで、どのくらいの収入が見込まれるのかはこれから検証していくが、我々としては、全てというのは難しくとも、収入の一定部分は新たな環境施策などに使えないか、ということを考えている。最初からメニューを我々が出すのではなく、今後の審議会での議論もあるし、市民の皆さま、町内会長の皆さまのお話を伺っていくうちに、いろんな要望が出てくると思う。そういった中から、緊急性とか費用対効果等を踏まえ、どういった施策がもっとも望ましいのかという事を考えていきたい。</p>
<p>荒井委員</p>	<p>紙類回収庫の話が出たが、実際には分かりにくい場所であったり、また回収キャラバン隊が回ってもそこに持ってくる人が少なかったりと、制度の活用が完璧になされていない現状であると思う。実際の処理費用が大袋一枚あたり 135 円、それに袋の製造や流通経費で 9 円も加算されると、かなりの処理原価がかかっている事になる。それに対して、現段階では 50 円前後というような話だが、原価は回収出来ないという事である。この点なども市民の理解を得るためには、市政だより等だけではなくて、広報活動もきちんとしていかないと、負担をする側の理解は得られにくい。</p>
<p>深野委員</p>	<p>今の荒井委員の発言で非常にいい例が出たが、私たちは既に崔委員の自宅周辺で紙の回収を実施している。気付かない人には全然気付いてもらえない実情があり、行政ではそういう現実にとどこまで細かく対応できるか、突っ込んだ検討をすることが必要だ。必死になって声をかけても、分からない人はずっと分からないという事が起きているの</p>

<p>議長（会長）</p>	<p>で、その辺も配慮をしていただきたい。</p> <p>紙を含めた回収の効率化と、有料化の際の還元策について、しっかりと行政として方針を示しておけば、もっと市民の協力が得られるだろうという話があったが、それは今後の検討課題にしたい。袋の単純従量制と 45 リットルの大袋一枚 50 円という提案に対して、特に反対意見が無いようだが、あまり議論せずに決めてしまうのはどうか。</p> <p>資料 3 の中で、有料化によってどのくらいごみが減量になるか、各都市のデータが記載されているが、かなり差があるようで、極端な例では一袋 80 円にした場合 40 パーセントの減量を達成したところもある。これは有料化の前にどれだけ減量化を進めているかにも影響されるわけで、単純には他に当てはめることはできない。仙台市の場合はこれまでもかなり減量化を進めているわけで、そのような中での 50 円という水準は委員の皆さんも納得できるものか。</p>
<p>庄司委員</p>	<p>単純従量制の採用は私も賛成。また対象範囲については、缶・びん・ペットボトルまで一緒にやるというのは問題で、市民に分別に協力していただいている中、今までどおり無料でやっていただきたい。まずは単純従量制を進めるとして、あとは袋の大きさ・種類・単価をどうするかがこれからの検討課題だと思うが、そこは時間をかけて次回以降の議論する事にして、まずは、単純従量制とその対象範囲を定めることが大事と思う。</p>
<p>深野委員</p>	<p>袋の種類について、最初からごみを少なくしようという事で、今まで 45 リットルで出していたのを、30 リットルが基本だというような姿に出来ればいいと思う。私は二人世帯なので、一回に 45 リットルの袋で出すという事は中々ない。小さい袋を基準にすると割安な感じがするのではないかと思う。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>非常に面白い提案だ。袋の大きさと値段の設定については今後もっと議論が必要だが、45 リットル 50 円ぐらいの線で、一つの案として考えたらどうかという事で、今回は結論ではなく方向性だけ出せばいいと思う。50 円ぐらいということは、45 円から 55 円の間ぐらいというのを考えていいわけで、袋の大きさによってまた値段が変わるので、そういった点も考慮して、次回以降に行政の方から提案していただく。</p>
<p>末永委員</p>	<p>今のものに加えて、紙の問題を何とかするという事が前提になれば、ごみの容量は減ると思う。そして、小さい袋で出したときには割安にする方がいいのではないか。基本は 45 リットル 50 円程度でいいと思うが、小さい袋はもっと割安にする、つまりごみを少なくして出せば経済的だという形にすれば、排出量を減らすインセンティブになるのではないかと。袋を三種類設定するのであれば、そういう考え方も加えた方がいいと思う。</p>
<p>松坂委員</p>	<p>今の意見に関連して、紙はまだまだリサイクルできるものが多量に一般の家庭ごみの中に含まれているので、我々業界としては、有料化を進めると同時に、必ず紙の受け皿のシステムづくりを一緒にやっていかなければと考える。現在市では集団回収に極力出すようにという話と、それからリサイクルのためのいろんなごみの出し方があるけれども、それ以外にも各地区においてステーション回収を我々事業者が行っている。こういったシステムをこの一年間の間に、試験的ではなくもう少し広げていって、確固たるものにすれば、家庭ごみから、相当数古紙のリサイクルに貢献するかと思う。</p> <p>それともう一つは先ほど庄司委員が言ったように、缶・びん・ペットボトルについては、これまで家庭で分別して、コンテナで集荷することによって、リサイクル品としては良品を作ってきた経緯がある。それをまとめて袋詰めにして収集、という事はリサイクルの精神に逆行するような形になるかと思うので、これに関してはずっと継続して、システムを崩さないようお願いしたい。</p>

議長（会長）	かなり色々ご意見が出ているが、仙台市には次回以降にそういうところを含めて提案していただこうと思う。
鈴木昇委員	皆さんが言うように私も感じていたのは、やはり紙類をどうするかという事。紙類を業者が回収したり、回収庫に持ち込むような制度があっても、家庭から見れば、いつ誰がどのように取りに来るのか、もしくはどの場所に持って行けば便利なのか、この辺がまだはっきり分かってない部分がある。有料化とセットにして、受け皿の仕組みづくりを明確に、方向付けだけでも決められたらどうなのかなと。例えば暫定的にでも、紙類については週に一回、例えばプラと一緒に並行しながら回収するとか、そういった受け皿をまず作って、そして具体的な袋の大きさの問題、手数料の問題ともセットで進めたら、と感じた。
議長（会長）	紙類回収の新しい仕組みは、今のごみ回収システムの中で取り入れられるのか。どのように回収するか、非常に難しい問題だと思うが。
局長	紙類については、仙台市では集団資源回収という長い歴史があって、回収量から見ても中心的な役割を果たしている。これが少子化等で十分に機能しないという地域も出てきているので、今は店舗にお願いしたり、新聞社の販売店で扱っていただくとか、そういった形で拠点回収を実施している。これからの課題としては、モデル事業として進めている集積所などでの回収について、集団資源回収の今後の動向等を見定めながら、どのように充実させていくかがポイントと認識している。今後はそのために必要な経費の問題等も含めて重点的に検討していく事になると思う。
安孫子委員	結局紙ごみを制する者は減量化を促進するし、有料化を検討していく中で、紙ごみ対策をどうするかという事は同時並行なのかなと思った。現段階で紙ごみ処理の大きな御旗となっているのは確かに集団資源回収であるけれども、少子化が進んでいるところでは、毎月出来ずに2ヶ月に一回くらいの頻度で実施している。しかし出てくる量は逆に紙ごみが増えていて、子供が少ないところで実質的に汗を流してやっているのはお父さんお母さんで、車を走らせて荷受け作業のような事をやっているのが現実である。そうすると、従来からの集団資源回収が紙ごみの処理の拠点であるという発想も変わらなければいけないのではないかと。それに代わってモデル事業を行っているわけだが、モデル事業での手法を主体にしていくような、スタンスの切り替えというものが必要ではないかという印象を持っている。
矢吹委員	皆さんの言うことは全くそのとおりと私も思うので、賛成の意を表したい。それとともに、有料化に対する受け皿を両輪のごとくきちんと作って、経済的なシステムがちゃんと出来れば、リサイクルが進んで、ごみとして出される量はすごく減るわけで、出る量に対して、逆に言えば、もっと高い手数料を設定することも可能なのかもしれない。手数料を高くつけられる仕組みを作れば、高い手数料でますます量が減ると。入ってくる収入も処理費用に回せるのではないかと思う。そうしたら皆さん納得のうえでごみを出して、なおかつ量が減って、資源化される量が増えてくるという考え方も出来るのではないかと。そういう事も含めた上で、もっと積極的にリーダーシップをとり、こういう仕組みを作るんだと強くアピールをして、そのためにこれだけの費用が必要だから、その分については減った中での収入で賄うんだと主張できるぐらいのものを是非考えていただきたい。
平賀委員	有料化になっても止むを得ないという意味の根源は、海野委員からの調査報告の最終ページの下の方に集約されていると思う。有料化に対する否定的な意見は主に経済的理由で、何のために実施する必要があるのかというきちんとした説明があれば、納得を得られるのではないかと。まず有料化に向かうということについて、経済的な負担と資源回

議長（会長）	<p>収が重要という事を両面として、きちんとした提案がなされればいいと思った。</p> <p>今後紙をどのように回収していくかはまさしく検討課題。紙の回収率も増え、ごみの減量、リサイクルにつながれば、仙台市としてはかなり成功したことになる。そういう点で今までの意見を踏まえると、50 円ぐらいはほかにも自治体もその程度だし、さらに減量化施策も提示すれば、そのぐらいは妥当かなとお考えと思う。ただ、それについては、もう少し行政も、市民が協力できるような体制づくりが必要ということでもかなり議論が出た。今回はだいぶ時間が経ってしまったので、検討課題に追加して、次回以降もう少し議論したいと思うが、その前の部分は大体よろしいという事で。ほかに意見・質問等あれば。</p>
山岡委員	<p>この中に、事業系一般廃棄物は入らないのか。事業系も徹底分別して回収、という事を同時進行で検討してはどうか。事業系ごみは袋に全部一緒に入れるので課題は山積しているが、それも加える必要は無いのか。</p>
局長	<p>重要な課題と思っているが、今回は生活ごみに関して受益者負担の問題を検討しているので、今回の審議事項としては生活ごみに限定して議論をお願いしたい。</p>
橘委員	<p>「ワケレター！」に記載された「100 万人のごみ減量大作戦」における数値目標を見ていたが、市民 1 人 1 日あたりのごみ排出量が、平成 16 年から 17 年の一年間で 35 グラム減っている。平成 22 年までの目標値が決めているが、もしかすると平成 18 年度でクリアするのではないかと。市民が努力している事が良く現れているのだろうが、そのような中でごみが有料化、という話になると、どうしてなのかという市民の声もあるだろうし、そのような疑問に対する説明がないと納得できない人達もいると思う。今後の目標値について、平成 22 年度までこの数値でいいのかどうかという事も含めて、きちんと考えなければいけないと思う。</p>
議長（会長）	<p>このデータは事業系と生活系のごみが一緒に集計されていて、排出量が大きく減少したのは、平成 17 年に再生可能な事業系紙ごみの焼却工場への搬入を禁止しているため。残る生活系ごみをもっと減らすのであれば、有料化がその方策の一つである事をもう少し説明してはどうか、という事だと思う。我々はある程度説明を聞いて知っているのかもしれないが、市民がわかるようなやり方で説明が必要だ。</p>
鈴木昇委員	<p>今回は定日収集の家庭ごみが対象という話であり、それ以外の臨時ごみ、それから粗大ごみ等については、現在も処理費用の一部を負担していただいている事は承知しているが、同じように家庭から出るごみという事で、それぞれを改めてわかりやすく啓発していけばいいのかなと感じたので、その点を提案したい。</p>
安孫子委員	<p>大半の委員の方々は 7 月以降も継続するところ、私は議会の立場から出ているが、次回以降は太白区の議員と交替する。今回が最後の機会なので、今後に向けて三点だけ、手短かに提案したい。</p> <p>一つは、近隣市町村との連携という、これは前回私が提案したものだが、情報交換を行う事は大変いいと思う。近隣市町村の行政双方の話を聞くと、仙台市がどのような市民負担を打ち出すかという事はかなり注目されている。それはやはりほかの市町村が仙台市以上に深刻な財政状況にあって、現状の行政サービスについて受益者の一部負担可能なところは導入をしたい、仙台市と一緒にやっていきたいという思いが、表には出ないがあるようだ。近隣の市町村とはしっかりと情報交換をして、同じような時期に、同じようなレベルで導入する方向を目指すように努力をしていただきたい。</p> <p>二番目は市民に対する広報について、新規に制度を導入するにあたっては、時間をかけて、徹底的に周知、理解を求めるときであろうと思う。従って、導入の過程の中で何</p>

	<p>をやっていくかという時に、リサイクルの推進について様々な方法を講じ、徹底した周知策を図ると。実際には指定袋を使わずに、レジ袋で捨てる方が多いが、そういう事例を一掃しなければいけないであろうし、買い物に行った際にはエコバッグ、マイバッグという取り組みを進め、スーパーの袋では捨てられないという意識付けを図らなければならない。そのためには時間がかかるであろうが、そういう意味で時間をかけて周知徹底を図るという事を、具体的にスケジュールを決めて進めるべきだろうと思う。</p> <p>三点目は還元策について、これまで無料だったところを負担していただくとすれば、さらに環境に貢献するような何か、環境のための負担であれば仕方がないと思えるような、誘導策なり促進策というものを打ち出すべきだ。私の意見として具体的に二つある。一つは集積所のネットの問題で、破損した場合に、町内会でどう対応するかという事がやりとりされている現状がある。そういった集積所の維持管理に対する助成を打ち出す事も考えられる。それからもう一つは集積所のごみが中々収集されないという問題であって、収集時間の短縮という事も考えていただきたい。例えば委託料を上乗せして収集業者に協力を依頼するなど、作業の効率化を図る事で、短時間で収集してもらおう。そういった方向の、有償化に伴う還元策を打ち出していただきたい。</p>
議長（会長）	<p>非常に貴重な意見が出されたが、今後の検討課題ということで、これからもこの審議会で議論していくと思う。特に近隣市町村の関係について、十分に理解を得られるような形で進めるべきだ。そういうことも含めて次回以降、さらに皆さんの意見をいただきたい。ほかに今後の検討課題で、何かご提案があれば。</p>
庄司委員	<p>安孫子委員から提案があった、地域の集積所や町内会へのメリットを出していけばいいというのは大変いい考えだ。周知徹底の必要はもちろんであるが、有料化になったら収集時間を早朝とか深夜にしてほしいというような地域も出てくるだろうし、サービス面の向上が大変重要になってくるのではないかと。行政が市民に対してどのようなメリットを提示出来るのか、考えていただければいいと思う。</p>
荒井委員	<p>資料3の3ページ、ごみ処理費用負担額に係る調査のところ、一枚あたりの単価が30円ぐらいで減量率が35～6パーセントという都市もあれば、50円ぐらいの単価でも減量率が10パーセント足らずというところもある。これは何か金額に関わらず、減量率が高い都市は何か特別な方策があってこうなったのかどうか、もし分かればそこを聞かせてほしいが。</p>
議長（会長）	<p>全体からするとこの3つの都市以外はみなまあまあだが、3都市がかなり特異的に、減量化率が高くなっているの、それについての理由は、次回答えていただくということでお願いしたい。</p> <p>もう終了の時間となったが、第一の議題について、大体45リットルの袋一枚あたりの手数料を50円前後にすると、それでよろしいか。いくつか検討課題が出たが、その対応策は次回以降に仙台市から案を出してもらおう事として、続いて2番目の議題、「第二次仙台市産業廃棄物処理指導計画の総括」についての説明を。</p>
廃棄物指導課長	<p>（資料4について説明）</p>
議長（会長）	<p>産業廃棄物についても仙台市では指導強化を行っている結果、資源化・減量化率が順調に進捗しているが、さらに今後は、指導計画を毎年見直していくとの事である。</p> <p>ただ今の議題について何かご意見があれば。細かなことについては、また別の機会に全体的な報告があるとの事で、必要であればその時にまた議論したいと思う。</p> <p>今回は多くの議論が出て、大変有意義な会議だったと思うが、これを踏まえて次回以降、事務局から、今日の皆さんからの意見をまとめて出していただきたいので、よろし</p>

総務課長	くお願いしたい。 これで予定していた議事は終わりとして、三番目の「その他」について事務局から。 次回の審議会は、7月下旬の遅い方の日程で開催を考えているが、具体的な日時は会長・副会長と相談のうえ、後ほど各委員に連絡したい。
議長（会長）	（閉会宣言） 議事録署名人 仙台市廃棄物対策審議会 会長 仙台市廃棄物対策審議会 委員